
ポケットモンスター A Gのポケモンで逃走中

スイーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター AGのポケモンで逃走中

【Zコード】

Z0739S

【作者名】

スイーナ

【あらすじ】

ポケモンアニメAGのサトシたちのポケモンが逃走劇を繰り広げる。生き残るのは・・・・ダレだ・・・・?

前回投稿していた小説が、何かマニュアルに違反していたらしいので、変更しました。申し訳ございません。

逃走ポケモン紹介（前書き）

逃走するポケモンの紹介です

前回は本当に申し訳ございません。

逃走ポケモン紹介

サトシのポケモン

ピカチュウ	スピード…やや速い	ミッショーン：積極的
オオスバメ	スピード…凄く早い	ミッショーン：積極的
ジユカイン	スピード…凄く早い	ミッショーン：積極的
ハイガニ	スピード…普通	ミッショーン：凄く積極的
コータス	スピード…遅い	ミッショーン：消極的
オニゴーリ	スピード…普通	ミッショーン…気分しだい

ハルカのポケモン

バシャーモ	スピード…速い	ミッショーン：積極的
アゲハント	スピード…普通	ミッショーン…気分しだい
エネコ	スピード…普通	ミッショーン…積極的
フシギダネ	スピード…やや遅い	ミッショーン…消極的
ゴンベ	スピード…やや遅い	ミッショーン…気分しだい
カメール	スピード…普通	ミッショーン…消極的
グレイシア	スピード…速い	ミッショーン…凄く積極的

タケシのポケモン

スマクロ	スピード…普通	ミッショーン：積極的
ウソツキー	スピード…普通	ミッショーン…積極的
ルンパッパ	スピード…普通	ミッショーン…積極的

逃走ポケモン紹介（後書き）

次回はルール説明です。

ルール説明（前書き）

ルール説明で～す！！

ルール説明

今回は、レインボー王国で逃走中を行います。レインボー王国は、城、城下町、ブルータウン、グリーンタウン、イエローシティ、ホワイトシティがある。ブルータウンは、港町。グリーンタウンは植物が多い町。イエローシティーは機械が多い電気仕掛けの町。ホワイトシティは穏やかな町。

賞金は1秒100円ずつ上昇。制限時間は3時間。逃走成功すると、108万円を手にできる。

自主は公衆電話で申告。

王国には、ポケモントレーナー、ポケモン、ミッションに関係する人たち（今は秘密）がいる。

ちなみに、ポケモンたちは、普通にしゃべります。

ルール説明（後書き）

次回から逃走中がスタートします！！

ゲームスタートーー（前書き）

いよいよゲームがはじまるーー。
キャラ破壊注意です。

ゲームスタート！！

城下町…………夜明け前の王国に、16匹のポケモンが集められた……。

アナウンス「これより、ゲームを始める。目の前にあるスイッチは、押すと2秒、30秒、1分、2分のタイマーのどれかが作動する。タイマーが0になるとハンターが放出される。なお、ボタンを押すのは、先ほど抽選でマークの付いていたカードを引いたポケモンだ。なおハンターは3体だ。」

ピカチュウ「僕？！」
グレイシア「頑張れ。」

ピカチュウ「どれにしよう……。」

エネコ「ねえ、ハンターくすぐってみたいんだけど、」
フシギダネ「あなただけだよ…………。そんな事思いつくの……。」

オオスバメ「べつ、どれ引いても誰も恨まないだろ。」

ジユカイン「オオスバメに同意。」

バシャーモ「2秒押しても確実に逃げるのはあんたらだけだよ、」
スマクロード「普通に『テオキシス（スピード）』と戦つてたもんね……。」

ピカチュウ「それじゃあ…………1番左にするね。」
ウソツキー「はーい。」

ピカチュウ「そりゃ……！」

ほ
ち

ՀԱՅՈՒԹՅՈՒՆԻ ՀԱՅՈՒԹՅՈՒՆ

ハンター放出まであと30秒・・・

ピカチュウ「短いなー・・・・つてカウントダウン始まってるーー」
コードス 「逃げなきやーー」

全員エリアへ散らばつた。

ゲームスタートーー（後書き）

はじめましたね。どうなるかな。

オープニング要員（前書き）

前回書き忘れましたが、技はハンターに当てなければ基本OKです。

オープニング要員

ハンター放出まで・・・

10

9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

・・・

プシュー・・・・・ハンターが放出された・・・・・

ピカチュウ「始まったーーー！」

フシギダネ「あまり遠くに逃げられなかつたなあ・・・。

ウソックキー「けつこう広いなあ。この逃走エリア・・・。

ウソックキー「どう隠れよつ・・・・・つて・・・・・来てねーーー！

！」

ハンター「！！！」

見つかつた・・・・・

ハンター

ハンター（確保完了・・・）

ウソツキ一邇いよ、ハンター！！

ט' ט' ט' ט' ט'

グレイシア「何？誰か捕まつたのかな？」

ヘイガ
城下町南部にてウソツキニ確保

オオスバメ「城下町南部つて・・・・まだ城下町にいたのか?！」
バシャーモ「30秒でここまで来て疲れないのはあんただけだつて
!!」
オニ「アーリ「後はジュカインぐらいだろ・・・・・・。」

その頃・・・・・ブルータウンでは・・・・・

「何？！ガソリンが足りなくなつてゐる？！」

「は・・・はい！－なぜか1時間前より減っているんで
す！」

船長 「ビリする・・・・・・お客様を待たせるわけには・・・」

チーフパーティー 「イエローシティーに問い合わせたところ、ガソリンを準備できるそうです!!」

船長 「本当か?!良かつた・・・・」

ゲームマスター 「・・・・・・・・」

モニター画面で港の様子を見るゲームマスター・・・・。パネルをスライドし、あるボタンを押した・・・。

客船に、10個のハンター・ボックスが出現した・・・。

パリリリリリリリリリリ

ジュカイン「メール?」

アゲハント「ミッション? ? !」

ミッションの内容は?!

現在の状況	ハンター3体	残り時間2時間50分	賞金6万円
-------	--------	------------	-------

オープニング要員（後書き）

ミッションの内容は何でしょうか？予想してみてくださいね。

パート1（前書き）

「ミッション」の内容は？！

パート1

ミッションの内容・・・・・・それは・・・・・・

ピカチュウ「ブルータウンの客船に10個のハンター・ボックスが設置された。」

オニゴーリ「残り時間2時間25分になるとハンターが放出される。」

エネコ「このハンター・ボックスは封印することができない。」
カメール「ただし、客船が出発すれば、逃走エリアには入ってこない。」

スマクロー「しかし、ガソリンの一部が減つて出発できなくなっている。」

ルンパツパ「ハンター放出までにイエローシティーのガソリンスタンドからガソリンを持つていけば、」

オオスバメ「客船を発射することができ、エリアのハンターは増やされずにすむ。」

ミッション?

ブルータウンの客船に、10個の封印不可能なハンター・ボックスが置かれた。残り2時間25分になると、放出される。ただし、客船が出発すればエリアに放たれる事はない。しかし、ガソリンの量が減つて客船は出発できない。イエローシティーのガソリンスタンドからガソリンを持っていけば、客船を発射することができる。

ジユカイン「イエローシティーか・・・・行くか!」

オオスバメ「近いな・・・・・行くしかないな!!」

グレイシア「行くに決まってる!!」

ピカチュウ「さすがに10体は辛いよ!!」

ヘイガニ「イエローシティーってここじちゃん!!行くよ!!」

「の5人はミッショングに向かいつつだ。

バシャーモ「オオスバメ行くの?」

オオスバメ「近いから行くだろ!普通!!」

バシャーモ「・・・・・それってつまり・・・・・」

オニゴーリ「・・・・・俺達も一緒に来いと・・・・・?」

オオスバメ「行きたくないなら別にいいけど、来るやつは予想できるから。」

バシャーモ「たしかに、グレイシア、ミッショングは全部やるって言つてたつけ・・・・・」

オオスバメ「それじゃ...」

バシャーモ「行つてらっしゃい。ここまで全力疾走だったのに・・・」

。

オニゴーリ「疲れてないつて・・・・・」

フシギダネ「ミッショングなんて怖くていけないって!!無理無理!!」

！」

ハンター「・・・・・・・・・」

フシギダネ「大体、何でミッショングなんてあるの?!!」

ハンター「・・・・・・・・」

フシギダネ「ミッショングなんて戦場カメラマンみたいなものじやない・・・つて来てる!!」

「

ハンター

パン

ハンター（確保完了）

アシギタネーあく・・・つかまつた・・・・・・・

לְלִבְנֵי כָּלָלָה לְלִבְנֵי כָּלָלָה

「バシャーモ」「フシギダネ確保・・・・・つかまつたんだ!」

現在の状況 ハンター3体 残り時間2時間45分 賞金

パート1（後書き）

ミッションはどうなる……？

パート2（前書き）

「ミシシヨンビ」うなるかなー？

パート2

ミッシュョン終了まで残り20分。間に合ひのか……？

グレイシア「ミッシュョンは行つとくべきでしょう……楽しいし、プラスになるし……」

フシギダネとは間逆の思考のグレイシア。近くに…………黒い影……

グレイシア「ハツ！まずい……ハンターいる……！」

ピカチュウ「え、うそ？！」

ハンター「…………」

グレイシア「隠れなきや…………」

幸い、ハンターは気づいていない。

グレイシア「あ、向こう行つた。じゃ、ミッシュョンに行こ……」

ピカチュウ「イコオオオオオオ！」

ヘイガニ「あ、ガソリンスタンド発見！……」

ヘイガニがガソリンスタンドに到達。

ヘイガ二 「すみません。ガソリン届けるために来たんですが・・・」

定員 「はいはーい。了解です。わざわざありがとうございますー」

ヘイガ二 「おねがいしまーす。」

店員 「あ！！」

ヘイガ二 「はい？」

店員 「ごめんなさい！たくさんガソリンケースあるよ。」

ヘイガ二 「いくつですか？」

店員 「5つ。だけど危ないから1人1つづつにしてもらえる

？」

ヘイガ二 「はい。」

店員 「はいはーい。ちょっと待つててね。」

ヘイガ二 「やばいな・・・？」

ヘイガ二はケータイを取り出し・・・・。

ピリリリリリリ

ピカチュウ「？」

ピカチュウに電話をかけた

ピカチュウ「はい？あ、ヘイガニ？どうしたの？」

ヘイガ二 「ミッショングー行く？」

ピカチュウ「いくよ、あと4分もすればガソリンスタンドにつく。」

ヘイガ二 「他に誰かいるか？」

ピカチュウ「グレイシアがいるけど・・・」

ヘイガ二 「なんか5つにガソリンが分けてあって、1回に1つづくつ運ばなくちゃいけないらしい。」

ピカチュウ「エエエエエエ？！じゃあ、あと2人？！」

「ヘイガニ」

ピカチュウ「わかった！！誰か見つけたら誘つとくよー！」

店員 「はーい、ガソリンでーす。」

ヘイガ一 「あ、ありがとうございます。」

ヘイガニは店の外に出たが、

「ヘイガー、「小さこの元重?」」「れ一個じやなきや運べないつて!」

オオスバメ「着いた！！」

ジユカイン「あ、オオスバメ。やつぱり来たか。」

オオスバメ「ジユカインもやつぱり来たんだ。」

「お、お疲れー！」

オオスバメ一早いな、ヘイガ二。

「あんな!! それじゃあ先行してるぞ!!」

「おー、ガソリンの代金を支払おう」

オオスバメ「ありがち……つて重?」

ジユカイン「おい、飛べるのか?」

オオスバメ「根性！！」

ジユカイン「・・・・・がんばれ・・・・・。」

ウソツキー「開始早々つかまつたよ。」

作者 「お疲れさん。クッキー焼いたから食べてー。」

フシギダネ「ありがとう。」

作者 「それじゃあ、私は借りてきたDVD見てるから。用があつたら呼び出しボタン押してね。」

ウソツキー「何見るの?」

作者 「映画ハートキャッチプリキュア 花の都でファッションショードですか? だよ。」

2匹 「?!

ウソツキー「劇場で見たんじゃあ・・・」

フシギダネ「とゆつか・・・もう中2でしじょう?!

作者 「本当なら映画プリキュアオールスターZDX3が見たいんだけど・・・」

ウソツキー「先週金曜&日曜に映画館で見たじやん。」

フシギダネ「オールスター、あと何回見たら気がすむの?」

作者 「10回。」

2匹 「・・・・・・・・・・・・」

作者 「じゃあね。」

フシギダネ「う・・・・うん・・・」

作者 「Yes プリキュア5 Gogo! みんなの応援が待ってる さあ進もう叫ぼう! っしょに!」

ウソツキー「歌つてるよ。プリキュアの歌を・・・」

・。」「

ブルータウン

エネコ 「この船か・・・うわあ、ハンターボックスがたつく
せーん!...おもしろーい!...」

危機感0だ
・
・
・
・
・。

パート2（後書き）

次回はどいつもこいつも。

それじゃあ、プリキュア見てきまーす。（本気）

パート3（前書き）

やっと更新できたーー！

遅いよね自分・・・。

パート3

ミッション終了まで残り10分・・・

ピカチュウ「やつと着いたけど・・・。」

グレイシア「結局誰も見かけなかつたね・・・。」

店員「あ、ガソリン届けにきたの?」

ピカチュウ「あ、はい!!」

店員「ああやつと全部運んでもらえる・・・。」

グレイシア「は?」

ピカチュウ「今なんて・・・?」

店員「あ、いやね、ガソリン全部で5つあるんだけど、内3
つつは運んでもらつたから・・・。」

ピカチュウ「ということは・・・。」

グレイシア「誰か2匹、行ってくれたのね!!」

店員「はい、ガソリンです。」

ピカチュウ「ありがとうございます!!」

ブルータウン

ジュカイン「・・・オオスバメ?大丈夫か?」

オオスバメ「根性で乗り切る!!」

ハイガニ「しかし・・・その状況でよく俺に追いつけたな。」

オオスバメ「だから根性あつたら何でもできるんだよ!!」

2匹「・・・」

ジュカイン「まあ・・・イエローシティーとブルータウンが隣でよ

かつたんじゃあないか?」

ハイガニ「ああ・・・ってなんだかんだ言つているうちに到

着・・・・・つてあれエネ「か？」

エネコ 「あ、みんなー ヤツホーー！」

ハイガニ 「声がでかい！！」

オオスバメ 「あははははは・・・・・・・・・。」（汗）

船長 「あ、ありがとうございます！！」

乗組員A 「助かりました！！」

ジユカイン 「あと2匹・・・・誰か向かつてているのか？」

ハイガニ 「ピカチュウとグレイシアがミッションに行くって言つていたけど。」

オオスバメ 「あの2匹なら大丈夫だろー！」

エネコ 「ねー、あのハンターくする」

ハイガニ 「やめてくれ・・・」

イエローシティー・・・

ピカチュウ 「急がないと・・・つてあと5分？」

グレイシア 「これ重たいし・・・間に合つかな？」

ピカチュウ 「はあはあはあはあ・・・・・・・・・・。」

グレイシア 「あ、ブルータウン！！」

しかし・・・・・・

ピカチュウ 「ハンターだ！！隠れて！！」

グレイシア 「何でこんな時に来るのよ？！」

ピカチュウ「ぜんぜん動かない……。」
グレイシア「どうしよう……。」

ミッショング残り2分30秒・・・

ハンター 「……………」
ビカチエウ 「……………」
ハンター 「……………」
ビカチエウ 「……………」

グレイシア「強豪突破は無理そうだし……。」

グレイシア「誰か見つかったのかな・・・? だけど・・・今がチャ

ピカチュウ「いそげ！！」

残り時間・・・1分・・・・

残り時間 30秒

グレイシア「ね・・・・え・・・・、
ピカチュウ「な・・・・に?」

グレイシア「今思つたんだけど……ガソリン入れるのって何分かかるの？」

ピカチュウ「え？」

グレイシア「ガソリンが間に合つたとして……もし入れるのに時間かかつたら……。」

ピカチュウ「あ……。でも届けたほうがいいって……間に合つかもしれないし……！」

グレイシア「…………そうだね……！」

残り時間15秒……

ピカチュウ「はあはあ……つ……ついたあ。」

船長「あ……ありがとうございます……！」

副船長「助かります……。」

船長「よし！出発だ！！」

ピカ&グレ「は？」

ポーポーポー

客船は出発していった……。

ピカチュウ「ガソリン入れてなくない？」

グレイシア「う……うん……。」

港の人「あ、あれは多分予備だと思つよ。」

ピカチュウ「ああ、なるほど……。」

グレイシア「あきらめなくてよかつたあ……。」

ピリリリリリリリ

ピカチュウ「ミッション連絡？速くない？」

グレイシア「あれ？これって・・・確保情報じゃん！？」

ピカチュウ「もしかして・・・さつきの？」

約1分30秒前・・・・

ルンパツバ「ミッション行きたかったけど・・・往復大変だし・・・
てかもう時間ないし・・・」

ハンター「・・・・・・・・・・・・！」
ルンパツバ「・・・・つてハンター？」

距離が・・・近かつた・・・

パン

ルンパツバ「あーあ・・・」

で、現在

ピカチュウ「タケシのポケモンつかまるの速い・・・」

ピリリリリリリ

カメール「あ、ミッション情報・・・」

スマクロー「ミッショングクリア！……良かつたーー！」

バシャーモ「やっぱり成功したんだ、オオスバメ・・・。」

パート3（後書き）

ミッション1 短かつた・・・

パート1（前書き）

ミッショングが幕を開ける

パート1

城下町 刑務所

k 「そうか・・・そんなことが・・・。」

冬来雪亜「はい。客船のガソリンが減っていたそうです。」

ダークピカチュウ「近くにいたからビックリしたよ・・・。」

k 「何があつたんだろう・・・。」

冬来雪亜「いやな予感します・・・。」

k 「とりあえず、次の会議で皆に言つておくよ」

ダークピカチュウ「よろしく。」

? ? 1 「フツ・・・犠牲者が多いほうが盛り上がると思つたが・・・
・・・客船を出してしまつた。」

? ? 2 「・・・しかし休憩している暇はありません。」

? ? 1 「ああ・・・、次の作戦の用意はできたな・・・?」

? ? 2 「はい。すでに仲間が実行しているはずです。ついでに邪魔なやつらの始末もしておきます

」

? ? 1 「そうか。」苦労。

グリーンタウン

「やれいやあ……やつがつか……。」

? ? 4 「ああ・・・。」

• • • • •

“П”“П”“П”“П”“П”“П”“П”

? ? 3
? ? 4
フ フ フ フ フ フ フ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
・
・
・
・
・
・
。

「全てはあの方の為に・・・・。」

グリーンタウンの中に時空の穴が開いた

アゲハント「・・・・・何の音?」

偶然グリーンタウンにいたアゲハント・・・・・

アゲハント「ハツ？！」

• ፳፻፲፭ • ፳፻፲፮ • ፳፻፲፯ • ፳፻፲፱ • ፳፻፲፲ • ፳፻፲፳ • ፳፻፲፴ • ፳፻፲፵

オーバーリー
「ん？」

「ん？」

エネコ
「たった今、グリーンタウンにパルキアが現れた。」

なべりく来る。

なく口へ来る

「四は、ユローリティーは着実に次第ノンノイを体放出する。」

止めるには4四に付いている赤い鎖を切るしかなし

アゲハント 「パルキア・・・今そこにはる・・・よしー!」

ハルギア
フデハソヘ

卷之三

ガキン！！

アゲハント 「何これ？！硬い！！」

市民1 「何だ？！」
市民2 「パ・・・パルキアがいる！？」

תְּנִינָה

市民3 「ああ・・・・ビうなつているんだ・・・・?」

ゲームマスター「・・・・・アノ鎮は以外に硬いな・・・・・それなら・・・・。」

ゲームマスターは逃走者にメールを送った・・・・。

ゲームマスター「これなら壊れるはずだ・・・・・。」

パート1（後書き）

追加ミッションとは
・
・
・
・
?

パート2（前書き）

やつと更新

パート2

ピリリリリリリリリリリ・・・・・

オオスバメ「なんだ？誰か捕まつたか？」

ジユカイン「ペース速くないか？」

オオスバメ「何々・・・・・？つて追加ミッション？！」

ジユカイン「不都合でもあつたのか？」

ピカチュウ「赤い鎌が思いのほか硬いようなので、」

スマクロー「そのままでは壊せないと思つ。」

エネコ「なので、『プラスパワー』か『スペシャルアップ』を使う必要がある。」

バシャーモ「なおその2つはそれぞれの役場にある。」

オオスバメ「つて、ただ単に移動距離伸びただけじゃんか・・・・。

「ジユカイン」「いや、」

オオスバメ「ん？何か裏でもあるのか？」

ジユカイン「そうじやなくて、」

オオスバメ「？」

ジユカイン「役場そ！」。

オオスバメ「あ・・・・」

素で気づいていなかつたらしい・・・・・・・・・

だがこれは一匹が考へてゐるものより過酷なミッションだった……

何故なら……

グリーンタウン

アゲハント「役場へ行きたいけど……パルキアが攻撃している……のままじゃ周りの皆が危ないし……」

パルキア「悪いが……」

アゲハント「え？」

パルキア「お前たちは邪魔だ……消えてもううー！」

アゲハント「ええ？！き……キヤアア！」

ピカチュウ「十万ボルト！」
パルキア「？！」

ピシッ

赤い鎖にヒビが入った

ピカチュウ「アゲハント！大丈夫？！」
アゲハント「え……ええ……。」

ピカチュウ「スペシャルアップ取つてきたから！はい。
アゲハント「ありがとう！」

パルキア 「貴様……」

ピカチュウ「あ、やつぱり今のじや駄目か……。」

パルキア 「覚悟！」

アゲハント「銀色の風！」

パリーン

赤い鎖が完全に割れた……

パルキア 「はっ！……私は何を……？」

ピカチュウ「やつた！」

アゲハント「ピカチュウが来てくれなかつたら危なかつた……あり
がとう。」

ピカチュウ「ミッションだもん、やらなくちゃね！」

パルキアは帰つて行つた
しかし……ほつとしたのもつかの間……

ディアルガ「イヤッハー！暴れてやるぜ！」

ピカチュウ「早つ！てかパルキアと性格違いますぎない？」

アゲハント「パルキアは冷静、ディアルガは暴走つて感じね……」

ピカチュウ「とにかく……十万ボルト！」

……が、

ピカチュウ「うわ、さつきよりも固い……」
アゲハント「ヒビさえ入つてない……」

ディアルガ「時のほうこつ！」

ドガーン！

ピカチュウ「まずい……また役場行かなきや。」

アゲハント「今度はもっと持つて行つた方がいいよね、私も行くわ

！」

ディアルガ「行かすか！！」

ピカチュウ「ヤバい！」

アゲハント「攻撃される？！」

パート2（後書き）

ピカチュウ&アゲハント

ピンチ！

パート3（前書き）

ピカチュウ&アゲハントの運命は？

パート3

ピカチュウ「ヤバい！」
アゲハント「攻撃される！」

オオスバメ「ツバメ返し！」
ジユカイン「リーフブレード！」

パリーン！

ディアルガ「あれ？俺何やつてんだ？」

ピカチュウ「危なかつた！」
アゲハント「セーフ……。」
ピカチュウ「ありがとう……ジユカイン、オオスバメ。」
オオスバメ「間に合つて良かつた。」
ジユカイン「それにしても……危ないことする奴等だな……。」
グレイシア「おーい！みんな～！！」
ピカチュウ「あ、グレイシア！」
グレイシア「今のところどう？」
ピカチュウ「とりあえず2匹撃破。」
オオスバメ「いや、倒してないから……」

その頃、グリーンタウンの反対側では……

ヘイガニ 「ティイヤー！」

バシャーモ 「ハツ！」

コータス 「ヤーー！」

パリーン！

ギラティナ 「あれ？ 何やつてんだ？ 僕？」

バシャーモ 「なんとか壊せた。」

ヘイガニ 「疲れた。」

牢獄でトーク

ウソッキー 「あーあ、暇！」

フシギダネ 「本当。」

作者 「ヤツホー！」

フシギダネ 「まだ呼んで無いよ。」

作者 「いやあ、ちょっとこうこうあつてもういいから

は絶対来れないから。連絡しに来た。」

ウソッキー 「本當だ、呼び出しちゃたん無くなつてゐる。」

作者 「じゃあ頑張ってね」

ルンパツパ「僕達もう頑張る必要無いんだけど……」

速くも三匹のポケモンを解放させた逃走ポケモン達
しかし最後の一匹が悲劇を起こすとは知るよしも無かった……

アルセウス「…………フフフフフ」

ピカチュウ「？…今向こうで音しなかつた？」
グレイシア「行ってみましょー！」

バシャーモ「向こうか？！」
ヘイガニ「よし！」

アルセウス「来たか……」
ピカチュウ「雷！」

ドシャーン

アルセウス「効かないな……」

アゲハント「ええ？！」

ヘイガニ「全く効いてない？！」

アルセウス「裁きのつぶて！」

ドガーン！

コータス「町が壊れてく！」

グレイシア「シャドーボール！」

アルセウス「当たらんな！」

オオスバメ「クツ！」

ピカチュウ「強すぎるよ…」

アゲハント「さつきと差が有りすぎるー！」

アルセウス「亜空切斷！」

グレイシア「ハツ？！」

ピカチュウ「グレイシア！？」

ジユカイン「危ない！」

ドガアアアン！！

メスの皆 「キヤアアアアアアアア？！」
オスの一部 「ウワアアアアアアアア？！」

残り2時間10分
賞金30万円

パート3（後書き）

アルセウス強すぎるね　（　おい　）

パート4（前書き）

最近眠
い

パート4

ホワイトシティー

ピカチュウ「つう

「リタス、監督……大丈夫?」

グレイシア「私も……」

オオズハメ……

!

「カチエウーうね、木に激突か……」

——タヌ
——若手めり込んでるし……

オオスバメ「サンキュー。」

ピカチュウ「あれでよく呼吸出来たね。」

「それにしても……さっきのはすごい威力だったね。」

۱۳۰ جلد

オオスバメ「とりあえず、アルセウスを探さないと……」「コチユカ「どうぞ。」

「爆風だけでここまで飛ばされたんだ、注意しないと

……」

ヘイガニ 「イタタタタタタ……」
バシャーモ 「何だったの？さつきのは、」
アゲハント 「ここは……イエローシティね、」
ヘイガニ 「皆立てるか？」
アゲハント 「うん。」
バシャーモ 「アルセウスを探さないと、」

ヘイガニ 「だな。」
アゲハント 「作戦とかたてなくて大丈夫かなあ。」
バシャーモ 「そんなことやつている暇無いって。」
アゲハント 「あ、」

ピカチュウ 「でもグレイシア、よく無事だったね。直撃じやあ無かつたんだ。」

グレイシア「それが……私も直撃だと思っていたの……恐くて動けなかつたから、どうして無事だつたのかしら？」

なぜグレイシアは無事だつたのだろうか……

ところで、皆さんは気づいていますか？

爆発に巻き込まれたポケモンが1匹足りていなうこと…

…

そう、それは…

ジユカイン「ウウ…………」

他のポケモンが遠くに飛ばされたなか、ジユカインだけはグリーンタウンの森のなかにいた。

その訳は、グレイシアが直撃を受けなかつたことと重ねるとわかると思う。 そう、ジユカインは亜空切断が発射されてからグレイシアに直撃するその一瞬に庇いに入った。そのため、直撃を受けたのはグレイシアではなくジユカインだった。ほほ爆心にいたためあまり遠くには飛ばされなかつた。

ジユカイン「体が……動かない……」

ダメージも大きいらしく、かなり危険な状態になつてい
た。

「ツチ、3匹も赤い鎖が壊されたか……」

「しかし1匹アルセウスの攻撃で大怪我をおつていま
す。」

「何? ツチならそいつに追撃しにいくか。」

「かしこまりました。N様。」

N 「プラズマ団が復活したこと教えてやろう。じや

ないか。」

幹部1 「そうですね。」

ジユカイン「早くアルセウスを探さないと……」

N 「おやおや、随分大怪我しているね」

ジユカイン「誰だ？！」

N 「フッ。」

ドガツ！

ジユカイン「グツ……！」

ドサツ……

ジユカイン「ハ……く……」

N 「僕の名前は乙女、よく覚えといてよね。お疲

れ様。」

ジユカイン「……」

「蹴り一発で倒れるとは、ダメージは大きかつ
たんだね。」

ゲームマスター「…………全く、何で伝説のポケモンが…………？」ミッシュョンにでもしないと町が壊されるよ…………はあ。」

ページページページ――！――

ゲームマスター「？！」

ゲームマスターが画面を見ると…………

逃走ポケモン一匹 異常有り

ゲームマスター「な？！」「……これは…………」

ゲームマスターが情報を見ると…………

逃走ポケモンNo.03・ジュカイン

戦闘不能 ダメージ大

ダメージ履歴

バルキア 亜空切断 直撃

ゲームマスター「不味いな……ええと場所は……」

ピーツピーツピーツ！

「エラー」

ゲームマスター「な？！……クツ……情報を見る限り速くポケモンセンターに連れて行かなければ……エラーの原因を調べなくては、急がないと……」

パート4（後書き）

もはやコメティックになくなっている気がするんだけど……

パート5（前書き）

全然更新できない。

絶不調なり。

パート5

オオスバメ「いたぞ！」

アルセウス「諦めの悪い奴等だな。」

グレイシア「……全員で一斉に攻撃すれば壊れるはず……多分……」

ピカチュウ「行くよ！」

コータス「OK！」

ハイガニ「合流できた！」

ピカチュウ「やつぱりダメか……」

オオスバメ「ん？不味い！」

グレイシア「何が？！」

オオスバメ「もうすぐイエローシティーだ、倒しきれなかつたら……」

バシャーモ「今戦っている意味が無くなるつてことね？」

コータス「離れるか？」

グレイシア「やむを得ないわね……」

逃走ポケモンは離れていった

アルセウス「フッ……ハンター放出！」
ハンターが現れ……起動した……

ピリリリリ

スマクロー「ミッション結果、うわあ1体放出か……」

ゲームマスター「あーつもう！」

怪我人＆エラーで堪忍袋の尾が切れたらしい。

ゲームマスター「私、堪忍袋の尾が切れましたっ！」

キュアブロッサムかよ……

ゲームマスター「何て言つている暇ないな……」

オオスバメ「クソッ、殺りきれなかつた……」

オオスバメよ漢字が違うぞ

オオスバメ「作者が漢字苦手だからだろ」

「もつとも

ハンター「！」

オオスバメ「あ！」

ハンターに気がつき凄いスピードで飛び出した。

オオスバメ「結構速いな……」

ハンター「……」

オオスバメ「全力出した方がいいかな?……って、あれ?」

ハンター「逃げられた。」

オオスバメ「ハンターどこいった?」

50%の力で逃げ切った。

グレイシア「…………ねえ。」

ピカチュウ「何?」

グレイシア「今思つたんだけど……さつきアルセウスに飛ばされたあとジユカインを見ていないような……。」

ピカチュウ「言われてみれば……絶対すぐに戻つてくるよね。ジユカインなら……」

逃走ポケモンも違和感に気がつく

ゲームマスター「駄目だ！」

先ほど堪忍袋の尾が切れたゲームマスター

ゲームマスター「こんなことになるなんて……と言つか何でゲーム関係者じゃない者がハンター放出を可能にする？」

ゲームマスターはかなりイラついている

ゲームマスター「海より広い私の心もこころが我慢の限界だ！」

何故プリキュアの真似をする？

ゲームマスター「知るか！作者が勝手に言わせているんだよ！」

あ、ばれた？次はキュアブラックの真似する？

ゲームマスター「殺すぞ？」

[冗談です。]

ゲームマスター「あーつもつ……やむを得ない、こうなった
ら……」

ピコリコリ

ピカチュウ「あ、メール。」

バシャーモ「一体なに？」

オニゴーリ「確保か？」

エネコ 「ハアツ？！」
アゲハント「冗談でしょ？！」
グレイシア「信じられない！」
ハイガニ 「馬鹿か？！」

メールの内容それは……

パート5（後書き）

ありえないくらいメールの内容は？

次回はなるべく早く更新を……
精一杯頑張るわ。

（見る人ほとんどいないけど）

s・o・s(前書き)

今回ぐらいからゲストの方の登場回数が増えてきます。
途中呼び捨てになるかもしれません、ご了承願います。

k 「と、いうことが有つたそうです。」

刑事 「しかし、犯人は何のためにそんなことをしたんですか？」

k 「解りません……」

あ、いい忘れていました。kさんは、この小説内では町中の警部です。

刑事2 「大変です！！」

k 「何ですか？！今会議中ですよー！」

刑事2 「そんなことを言つていい場合ではありませんー！王国に時空伝説に出てくるポケモンが……」

k 「本当ですか？！」

刑事2 「こんなことで嘘なんてつけませんよー！」

オオスバメ 「何なんだ？！このメールは！ガセネタか？」
バシャーモ 「さすがにガセネタではないと思うけど……」
ハイガニ 「じゃあ何なんだよ！このメールは！」
グレイシア 「ほんとのこととしか言いようがない……無い……」
コーダス 「でも何で強制失格？しかもジュカインが？」
ハイガニ 「知るか！」

メールの内容は

ジュカインは強制失格となつた

だつた

グレイシア「ハンターを攻撃したとか？」
ピカチュウ「そんなルール破る性格じゃないよ！」
バシャーモ「規定の高さより高くジャンプしたとか？」
オオスバメ「それはかえつて目立つからやらないだろ？。」
一同「いつたい何が原因？」

ピリリリリリ

ハイガニ「うお？！」

グレイシア「何？！」

オオスバメ「ミッショング……」

バシャーモ「もう？！」

エネコ

「ジュカインにアルセウスの攻撃が直撃したため

ヌマクロー「ダメージがかなり蓄積している」

カメール「場所を特定してもエラーが出てしまい、」

ピカチュウ「場所を知ることができない。」

アゲハント「ジュカインを見つけ、ポケモンセンターに連絡をしてもらいたい。」

コータス「なあ、このミッションを成功した瞬間、」

オオスバメ「タイマーが止まり、休憩に入るので頑張ってほしい。」

グレイシア「つて……」

ピカチュウ「何か大変なことになつてるんだけど……」

オオスバメ「強制ミッションでは無いけど……」

一同「それ以前の問題じゃん！」

オニゴーリ「何か不味いことになつているな……」

オニゴーリ「近く黒い影……」

オニゴーリ「行くしかないな……」
ハンター「……」

オニゴーリ「?! しまつた！」

ハンターは神出鬼没

いつ どこから現れるか解らない

パン

ハンター 「確保」

オニ「ゴーリー クソッ！ こんなとき！」

ピリリリリ

エネコ 「ん？」

オニ「ゴーリー確保

カメール 「サトシのポケモン初めて捕まつたね。
スマクロー「タケシのポケモンは僕だけなのに」」

グレイシア 「とりあえず別れましょう。」
オオスバメ 「だな。集団でいると田立つ。」
ピカチュウ 「ジユカインも探さなきゃね。」

グレイシア（私が無事だったのって……まさか……）

ヘイガニ 「あの爆風を受けたんだ、多分遠くの方だひつ。
バシャーモ「遠くの方だと思うけど……」

ほとんどの者が爆発地点から離れていく。しかし、ジュカイ
ンがいるのはグリーンタウン。爆発地点のすぐ近くだ。

オオスバメ「いくらあの爆風でも……直撃だったら……」

一匹だけグリーンタウンの方に向かうオオスバメ。

ハンター 「！」

オオスバメ「ん？ チツまたか！」

13秒後

ハンター 「逃がした」

オオスバメ「あれ？」

全力で飛んでないのに簡単に振り切った。

その頃、イエローシティ

ハンター 「…………」まだ誰も確保していない

エネコ 「ううん? どこだる、ってハンターだ!」

ハンター 「あ、逃走者だ、こんにちは~」

エネコ 「? ! ……まついつか! こんにちは~!」

ハンター 「大変そうだね」

エネコ 「うん。でも何で確保しないの?」

ハンター 「ああ、人数足りずにエキストラでやつたんだけど、
やる気無いんだよね~」

この一匹と一体は自分の立場を理解していない。

アゲハント「どこ行つたんだろう?」

ブルータウンを探すアゲハント。

アゲハント「てゆうか、逃走中で怪我人つて……まさかと思つけどゲームマスターが考えて無かつたことが有つたのかな。」

物わかりがいいね

アゲハント「で、町の被害を減らすために私達を利用……」

正解だよ～ん

アゲハント「……」

アゲハント（この作者め……後で皆に言おう。）

残り時間 1時間 45分

賞金 45万円

s · o · s (後書き)

若干コメटイらしく……なつたかな?

パート1（前書き）

ポケットモンスターってやっぱりAGが一番好き

パート1

N 「あーあ、しばらく休憩しよう。」

幹部1 「お疲れ様です。」

N 「ん……ダークピカチュウがいないと仕事が早く進むよ。」

幹部2 「全くです。」

この小説ではダークピカチュウさんはポケモンホワイトの主人公的存在です。

つまり、今現在のNの敵ということです。（もう少し言い方しろよ）

アゲハント「まったく、何なの？」ミッシヨン。失敗してもデメリット無いような書き方してるけど結構デメリット有るって。」

ピカチュウ「制限時間無さうで有るよね。これ……」
グレイシア「生命の制限時間ってこと？」
ピカチュウ「うん。」

「ふざけるなよ、！」の//シショーン！
「失敗したらどうなるのかな？」
「とりあえず、ヤバイだろうな。」

オオスバメ「あれ？ ハンターどーいつた？」

ハンター1（またオオスバメに逃げられた……）

ハンター2（さつきオオスバメに逃げられた……）

ハンター3（またかよ）

ハンター同士で連絡をとっているようだ。

ハンター3（合計で何回オオスバメに逃げられたんだ？）
ハンター1（俺3回）
ハンター2（俺2回）
ハンター3（俺1回）
ハンター1（6回も……）
ハンター2（しかも絶対本気じゃないよな？）

ハンター3（ああ、）

ハンター1（てか、ハンター4と連絡とれないんだが……）

エネコ 「でさあ、それが凄くてね！」

ハンター4「それは大変だったね。」

おい、ハンター4よ、真面目にやれ。

ハンター4「やだ。」

（これからハンターに番号付けます。それと、スイーナの書くハンターは思考が有ります。）

ゴンベ 「お腹すいた。」

カメール 「ハハハ……。」

ハンター3「……」

カメール

「あ！」

ゴンベ

「ハンターだ！」

2匹は走り出すが、差は縮まるばかり……

カメール 「ゴンベ、ごめん！」

カメールはスピードを上げた

ゴンベ 「え？！」

パンツ

ハンター 3 「確保

ゴンベ 「捕まつた。てが、全然出て無いよ、僕」

カメール 「ごめん……」

カメールは逃げ切った

ピリリリリ

ピカチュウ「うわあ、ゴンベ確保か……。」

グレイシア「確保スピードが上がってる。」

ダークピカチュウ「なんだ?!」の状況は!-!

ダークピカチュウさんが見たのは壊れたイエローシティ

ダークピカチュウ「…………？」

後ろを見ると、アルセウスが時空の穴に入つて行こうとしていた、

ダークピカチュウ「あいつか…………」

アルセウス「…………」

ダークピカチュウ「逃がさない! いけ! ゼクロム!」

ゼクロム 「よつと。」

ダークピカチュウ 「シャドーボール！」

ゼクロム 「ハアアアアアアア！」

ドカーン！

アルセウス 「…………」 気絶

ダークピカチュウ 「よしつ」

ゼクロム 「つて、こいつアルセウスじゃね？！」

ダークピカチュウ 「いやあ、町を破壊していたからつい…………」

パート1（後書き）

アルセウス氣絶

（何か恨みでも有るのか？）

パート2（前書き）

物凄く更新遅れた！

パート2

オオスバメ「クソツ、ジュカインビコだ?」

ピカチュウ「あ! オオスバメ! !」

オオスバメ「おピカチュウ!」

ピカチュウ「ここ爆心付近だよ? ここには居ないんじゃない?」

オオスバメ「直撃だつたらそこまで飛ばされないんじゃ…」

ピカチュウ「あ…」

ゲームマスター「疲れた。」

キーボード叩きまくり、疲れたらしい。

ゲームマスター「ぶつちやけありえない」

キュアブラックだ!

ゲームマスター「いい加減にしろ」

ヤダ

ゲームマスター「……」

ハイガニ 「いない！」

バシャーモ 「何処？！」

グレイシア 「見つからない！」

オオスバメ 「……！」
ピカチュウ 「いた！」

ジユカイン「…………」

オオスバメ「おい！」

ピカチュウ「大丈夫？」

オオスバメ「ピカチュウ、ポケセンに電話！」

ピカチュウ「あ…解つた！」

ピカチュウ「もしもし！すみません！救急車お願いします！場所？
場所は…」

オオスバメ「たつた一撃で！」止まる

ピカチュウ「連絡したよ！」

オオスバメ「サンキュー。」

ピカチュウ「…………」

ヘイガニ 「ミッションクリア！」

バシャーモ 「これより3時間の休憩！」

グレイシア 「良かつたあ……」

オオスバメ 「牢獄でも行くか？」
ピカチュウ 「うん……疲れた。」

パート2（後書き）

休憩開始します

パート1（前書き）

今から、牢獄内のポケモンには が付きます。

あと・・・更新遅れました！…ごめんなさいーー！

パート1

オオスバメ「ヤツホー！」

フシギダネ「全ミッション参加のわりに疲れてないね。」

オオスバメ「？」

ピカチュウ「今までハンターを8回振り切つたらしいよ。」
牢獄メンバー「はあ？！」

エネコ 「あれ？ハンター動かなくなっちゃった。」

ハイガニ 「何やつてんだ？エネコ…」

バシャーモ「ほつとこうよ。」

グレイシア「そうだね」

ルンパッパ「で？ジュカインは大丈夫なわけ？」

オオスバメ「ああ、命に別状はないって。」

ウソツキー「あつたら、この小説コメディーじゃなくなるでしょ、

「

オニゴーリ「まあ、無事ならよかつたじゃん。」

一同 「あれを無事とは言わないと思ひつ。」

ポケモンセンター

冬来雪亜 「チラチー、オレンの実。」

チラチー、「了解！」

冬来雪亜 「それにしても・・・ひどいケガ。」

チラチー、「ほんと。」

冬来雪亜さんは、ポケモンセンターの看護師です

ジユカイン「う・・・・・・・・・。」

チラチー、「気がつきました?」

ジユカイン「ここは?」

チラチー、「ポケモンセンターです。」

冬来雪亜 「オオスバメとピカチュウが連絡をくれたんです。」

ジユカイン「・・・・・そうか。あ、看病ありがとうございます。」

ます。」

エネコ 「ヤツホー！……」

ピカチュウ 「元気だね。」

ハイガニ 「まったくだ。」

バシャーモ 「相変わらずと言つか……。」

ピリリリリリリリリリリ

ピカチュウ 「はい。もしもし……？」

ウソツキー 「電話？」

ピカチュウ 「え……？ 本当ですか？！」

コータス 「どうした？」

ピカチュウ 「ジユカインの意識が戻ったって……！」

皆 「よかつた！」

ピリリリリリリ

オオスバメ 「メール？」

グレイシア 「ただいまから、牢獄の場所を、ポケモンセンター内に
変更する。」

カメール 「ついでに、今から30分後、そこで、ミニゲームを行
う。」

ピカチュウ 「できる限り、早く集合せよ……。」

オオスバメ 「じゃあ、行くか、ポケセンに。」

ハイガニ 「ああ。」

パート1（後書き）

次回はなるべく早くします！！！

パート2（前書き）

今回若干くだらないです
いつもか・・・（泣）

パート2

オオスバメ「さて……//ゲームまで時間も有るし……」
ピカチュウ「今までの報告でもする?」

オオスバメ「いや、説教してくる。」

一同 「誰に?!!」

オオスバメ「ジュカインだよ。一度キツく言つておかなきや次には
マジで意識不明になるぞ。」

ピカチュウ「は?」

オオスバメ「思い出してみる。旅の途中、一番酷い怪我していたの
は誰だ?」

グレイシア「言われてみれば……」

フシギダネ「ジュカインかもね。」

オオスバメ「あいつが怪我した時には共通点がある。」

バシャーモ「誰かを庇う時か…事実私もアチャモのころ助けてもら
つたよ。」

オオスバメ「今回もそうだ、アルセウスの亜空切斷だつて、あいつ
なら簡単によ蹴れてたはずだ。」

グレイシア「……私が無事だつたのは…やつぱり…」

オオスバメ「というわけで……行つてくる」

ピカチュウ「てか、説教なら逃走中終わってからにしなよ。タフだ
なあ。オオスバメは……」

ジユカイン「……あ、オオスバメ……ありがとうな。」

オオスバメ「ジユカイン、お前グレイシアを庇つてこうなつただろ

……」

ジユカイン「……さすがだな、解つたのか。」

オオスバメ「当たり前だ、何年一緒にいると思つていい。」

ジユカイン「さすがに、あの攻略をグレイシアにぶつけるのはまずかつたからな……」

オオスバメ「お前なあ……毎回毎回他のポケモン（人）を庇いすぎだ！」（怒）

ジユカイン「……」

オオスバメ「相性悪いのにハブネークに立ち向かうし技使えない時にサトシを庇うし、ヨノワールからパートナーを守る」

ジユカイン「それ、確かにジユプトルだけど俺じやあ無いからな。勘違いするな」（汗）

ピカチュウ（オオスバメ マジギレしてるね）
グレイシア（うん）

ハイガニ（あんなオオスバメ初めて見た……）

バシャーモ（かなり気にしてたみたいね）

ルンパッパ（長い間一緒にいたからなあ、あの二匹）

オニゴーリ（でもジユカインつていつも一匹でいなかつたつけ？）

一同（それを言うな。それを。）

ピン・ポン・パン・ボーン

ゲームマスター「只今より、ミニゲームを始める! ロビーに集まつてくれ。」

ピカチュウ「ハイハイ」

パート2（後書き）

ちなみに、「ヨノワールからパートナーを守った」というのは、ポケモン不思議のダンジョン時・闇・空の本編中にあった、ジユプトルが元々のパートナーである、主人公をかばうシーンのことです

パート3（前書き）

ミニゲーム タイム

パート3

ゲームマスター「只今より、マジゲームを始める!」

ピカチュウ「何やるの?」

ゲームマスター「君たちの前に、大量のカードが有るだろ?」

グレイシア「ああ、これ?」

ゲームマスター「表にはいろいろな事が書いてある。確保されてい
ないものが一枚ずつめぐり、そこに書いてある事がおこる。とい
うことだ。」

エネコ 「わー楽しそー!」

ヘイガニ 「ずいぶんシンプルだなあ……」

ゲームマスター「じゃあマジゲーム終了後、ゲーム再開時刻をメー
ルで伝える。じゃあな。」

ピン・ポン・パン・ポーン

ピカチュウ「じゃあ僕から行くね。」
バシャーモ「よろしく」
ピカチュウ「これにするよ」

ピカチュウが選んだカードは、星の模様のカード。

ピカチュウ「エイ！」

書かれている事は……

ピカチュウ「逃走時間5分短縮。」

グレイシア「やつた！」

カメール「と、すると……」

オオスバメ「もともと、後一時間30分だから……」

バシャーモ「一時間25分ね」

コータス「次行きます。」

アゲハント「よろしく。」

コータス「これにするよ。」

書かれている事は……

コータス「休憩時間5分延長」

オオスバメ「これ結構重要なだな。」

ヌマクロー「うん」

アゲハント「次行きますー！」

バシュ！

ピカチュウ「ハヤツー！」

アゲハント「わー、何が書いて……ブツ！」

ピカチュウ「どうしたの？」

ヘイガニ（とゆうか…アゲハントのキャラが変わった…）

アゲハント「着メロ変更…」

オオスバメ「何だそりや。」

バシャーモ「フザケとしか言いようが無いね」

ヘイガニ「いつたいどんな着メロに…」

オーライ　Dondon進め　風きつて～

一同　　「！？」

オオスバメ「バトフロの〇〇だな。」

“ついでにオオスバメがピカチュウに電話したらしこ

ピカチュウ「へー。この曲か～」

ヘイガニ 「次行くぜー」

ヘイガニが選んだカードは水玉模様のカード。内容
は…

ヘイガニ 「着メロを元に戻す。」

オオスバメ 「ビーでもいいな」

ヘイガニ 「ああ」

その後、いろんなカードを選んだが、「牢獄にモニ
ター設置」とか「静電気大実験」とかくだらない内容しか無。

エネコ 「静電気大実験楽しかった」

ピカチュウ 「まともな内容にしてよ……」

グレイシア 「じゃあ私の番…」

バシャーモ 「まともなの引いてよ。」

グレイシア 「努力するわ…」

グレイシアが選んだカードは雪模様のカード。内容は…

グレイシア「ハンター一體消滅！」

皆 「ヤツタ－！」

オオスバメ「最後は俺か…？」

ピカチュウ「うん」

ゴンベ 「ファイト」

オオスバメ「じゃあこれで……」

内容は……？

オオスバメ「？」

バシャーモ「どうしたの？」

オオスバメ「逃走中用アイテム追加？」

ピカチュウ「なにそれ……」

ピコリリリ

メールだ…

ピカチュウ「午後3時より、逃走中を再開する」
コードスター「なあ、オオスバメが『逃走中用アイテム追加』の力
ードを引いたため、」

グレイシア「プラスミックションが追加された」
オオスバメ「頑張りたまえ」

ピカチュウ「プラスミックション?」
グレイシア「逃走者が有利になるミックションのこと。」
オオスバメ「いつたいどんなミックションなんだ?」

ピカチュウ「解らないけど、一つだけ言えるのは…」

一同

「あの作者のことだから絶対くだらなくミックション」

パート3（後書き）

追加ミッションとは…？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0739s/>

ポケットモンスターAGのポケモンで逃走中

2011年11月20日07時20分発行